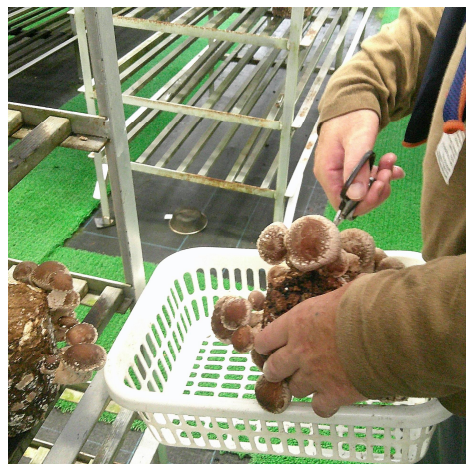


土と触れ合い、農園で培う踏ん張る力

社会福祉法人たんぽぽ（神戸市）



経緯

- ・1998年の設立当初は、5～6人の利用者とフィンランド工芸（ポップナ織り、フェルト工芸等）の制作・販売、野菜作りを行う。
- ・神戸市中央区や東灘区等の市街地で生活している利用者は、普段土に触れる機会がなかったことから、就労継続支援活動の一つとして、神戸市北区で農地を借り受けて野菜作りを行うことにした。
- ・体幹が弱く、体の使い方が上手でない利用者が多かったため、耕運機の使用や農作業に従事し踏ん張ることで体幹を鍛え、地域社会で幅広い活動ができる体づくりを目指した。

取組内容

- ・東灘区にある作業所から農園までは車で30分程度。耕作放棄地だった近隣の農地や市民農園を借りて、じゃがいもやたまねぎなどの多種多様な野菜やそば、きのこを露地・ハウスで栽培している。
- ・毎日農園に行き、ゆっくり作業を行うわたぼうしチーム（11名）と、フィンランド工芸制作が主で水曜のみ農園に行くたんぽぽチーム（15～18名）があり、利用者の特性に応じた様々な農作業に通年従事できるようにしている。
- ・利用者本人が考えてやってみることにより成功体験を積んでいけるようにしており、スタッフは危険がないか等を見守っている。長年在籍している利用者がリーダーとなり、他の利用者に作業を教えている。
- ・収穫した野菜はマルシェなどで販売するほか、かまどの調理体験や利用者みんなで食べることで、野菜嫌いがなくなったり、美味しさを他人に伝えることができたり、利用者の良い影響を与えている。

今後の展望等

- ・農作業を行うことで少しずつ地域に溶け込み、農園の周りの農家の方から農作業を教えてもらったり気軽に声を掛けてもらえるような関係を築けている。今後も地域農業の維持に向けて耕作放棄地の整地を行うなど、地域活動に積極的に参加していきたい。
- ・収穫したそばでそば打ち体験をしたところ、利用者が静かに真剣に取り組む姿が印象的だったことから、将来的には、利用者がそば打ちする姿を見てもらえる場所を作り、地域住民との交流を図りたい。